

麻花（マーホア）売りの女（1994）

二■
ERMO

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 中国／香港

色彩 Color

時間 95分

初公開日 1995/12/09

公開情報 大映

【解説】

87年のハリウッド製活劇をも凌ぐ大刑事アクション「追跡者」で脚光を浴びたヒットメイカー周曉文が新境地を開いた、農村が舞台の“女性映画”。と言っても、彼一流の叩みかけるような劇的トボスが随所に露れて、ありきたりの人間スケッチに終わっていないのはさすがだ。原題は主人公の名だが、醜い次女の意味を持つ。歓迎されず生まれたことを示すのか、しかし、現実にも今でも農村ではこのような名付け方があるそうだ。舞台は北方の農村（ロケ地は河北省）。アルモは年上の元村長の夫との間に8歳の息子がいるが、まだ若く勤勉で、腰痛を理由に働こうとしない夫をよそに、毎朝早く起き出して麻花作りに余念がない。この、巨大なかりんとうのような菓子を町で売るのが一家の最大の収入源なのだ。彼女は小麦粉を足でこね、突出し機で細かく紐状にし、庭いっぱい広げて干し、ねじっては揚げていく……。息子がそれ目当てで入り浸りの隣家のテレビに負けない大画面（もちろん日本製）テレビを買おうと、一銭でも多く一刻でも早く彼女ががむしゃらに働く。犬猿の仲の夫人と違いアルモに何かと親切な隣家の主人シャーツは、町の食堂で麻花を作ればもっと稼ぎがよいと奨める。その職場で起きた凄惨な事故。しかし、そこから彼女は血を売れば金になることを学び、仕事の合い間、せっせと塩水を飲んで血を売りに行った。アルモとシャーツは一度、男と女の間を結んだが、それ以上の進展はなかった。しかしシャーツは彼女の給料の一部を上乗せして払い、プライドの高い彼女の怒りを買う。彼は仕方なく商売女に手を出し火傷をし、それを嘆く夫人にアルモは親近感を覚えるのだった。そして、いよいよ念願のテレビが一家の物となったが……。アルモを演じたアイ・リーヤーのエキゾチックな風貌と逞しい演技力は作品の最大の推進力。愚直な田舎女になり切っていて凄い。

【クレジット】

監督 チョウ・シャオウエン Zhou Xiao-Wen

脚本 ラン・ユン

撮影 ルユイ・ケンシン

音楽 チョウ・シャオウエン Zhou Xiao-Wen

出演 アイ・リーヤー

カー・チーチュン